

## 2015 年度「教養特別講義 2」について

松森 晶子

「教養特別講義 2」は、学問探究と並行して「人間形成」をその教育の中核に置いた創立者成瀬仁蔵が本学学生に向けて行った講義、「実践倫理」の流れを汲む授業です。現在この授業は、学長の行う講義のほかに、学内外のさまざまな分野で活躍する講師を招いて講演形式で行われており、本学に入学した学生全員が履修する必修科目のひとつとして、2 年次以上の学生を対象に開講されています。

以前は、教養特別講義 2 委員会の委員の教員が、適任の講師を探して講演を依頼する、という形式をとっていましたが、2009 年（平成 21 年）にその方針が見直されました。現在は「専門分野の学問研究に立ち向うにあたって、常に広い視野と倫理性に基づいた高い識見をもって、人類の未来に創造的に自己実現を果たすことができる人材を養成するとともに、現代を生きる女性のキャリアを十分に伸ばす」というテーマを掲げ、実施・運営されています。すなわち現在の教養特別講義 2 は、長い将来にわたって学生ひとりひとりが、そのキャリアを追求することを通じて、十分な社会貢献ができる人材として活躍することを目指した授業となっており、またその講師選定も、教養特別講義 2 委員会を構成する教員のみならず、学科から選定された学生委員の意見も取り入れながら行われています。

講演テーマは「女性のこころとからだ（対象、学年：2 年～）」、「現代文化のなかの女性（2 年～）」、「女性と職業（2 年～）」、「家族と女性の生き方（3 年～）」、「女性と社会参加（3 年～）」、「女性と世界（3 年～）」の 6 つの分野にわたっています。今年度の講演者の選出も、2014 年度の教養特別講義 2 委員会委員と学生委員、そして現代女性キャリア研究所が推薦する候補者の中から選出・交渉しました。

今年度も、本学学長のほかに、医師、オリンピック銅メダリスト、ヘルスケアカウンセラー、前新宿区長、等々、例年同様、多岐にわたる専門分野の方々に講演を依頼することができました。

ところで、2021 年のキャンパス一体化に向けて、教養特別講義 2 委員会は今、その運営方法に関する大きな問題に直面しています。目白キャンパスに通う学生数の大幅な増加が見込まれる一方で、大勢の学生を一度に収容できる大教室の不足という問題が、目白キャンパスにはあります。このような物理的制約を乗り越えて、この伝統ある講義を今後どのように運営し、創立時から続く伝統とその理念をどのように維持・継承していったらよいのか。慎重な検討を要する課題と言えるでしょう。

（まつもり あきこ 文学部英文学科教授・教養特別講義 2 委員会委員長）